



Y's Men International

Japan East Region 2021-2022 理事通信

主題 “Think for the next generation.” 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
スローガン “We are stronger together than we are alone.” 「絆を深める時」

理事メッセージ

2021年-2022年東日本区理事
大久保知宏（宇都宮）



2022年2月24日未明（現地時間）ロシアによるウクライナへの武力侵攻が始まりました。私たち東日本区は国際協会のウクライナアピールに呼応して、世界 YMCA 同盟、ヨーロッパ YMCA 同盟が実施するウクライナ国民への支援のための募金活動を始めました。3月末で締め切った結果、737,000円が集まり、4月9日の役員会での決議で東日本区の会計から支出し、100万円の寄付を行いたいと考えています。また、各地の YMCA でも街頭募金活動などが行われており、それぞれのクラブでのそれぞれ地域からのウクライナ支援をお願いしたいと思います。ウクライナでのロシアによる武力侵攻から1か月が経過し、ウクライナからの難民は増加の一途を辿っていて、避難先での生活も大変な状況となっています。私たち東日本区では、継続的に日本 YMCA 同盟との連携の中で今世紀最悪の難民の発生に対して支援を継続していきたいと考えています。会員のご理解とご協力をお願いいたします。今号では、ページを割いて、3月18日に YMCA のグローバルネットワークの連携と支援によって無事に日本に避難したテティアナ・ロパテンコさんの手記と、ウクライナ YMCA の対応について一部を掲載します。（全文は同時に東日本区ウェブサイトに掲載します）ウクライナにおいて発生している危機への理解を深めていただければと思います。

今月は Week 4 Waste 「環境のための週間」、グリーンプロジェクトが強調月間のテーマとなっています。各クラブにおいて独自の活動をお願いいたします。

メッセージの最後に3月号の発行が遅れ、4月号との合併号となったことを深くお詫びいたします。



ウクライナ YMCA の対応

このレポートは、ウクライナとその近隣諸国での戦争に効果的に対応するためのヨーロッパと世界の取り組みを支援するすべてのパートナーYMCA と組織宛にお送りします。これは前例のない事態であり、地域、国、そして国際レベルでの私たちの運動は、その結果に深く影響されています。この報告書全体を通して、さらに関連する情報へのリンクがあります。

2月22日、世界YMCA、YMCAヨーロッパ、YMCAウクライナ、YMCAヨーロッパによる共同声明が合意され、危機の中での我々の運動の立場を表明して広く公開されました。

2月27日には、戦略とアクションプランの第一稿が作成され、戦争の影響を直接受けたパートナーYMCA と全ての主要なステークホルダーの間で共有されました。

戦略とアクションプラン：<https://bit.ly/UA-Strategy-1>

3月8日、アクションプランの重要な要素として、「地域のYMCAのための難民救済・復興と運動強化・能力向上」のコンセプトと戦略目標が策定されました。

資料へのリンクはこちら：<https://bit.ly/UA-RRRMSCB>

紛争のシナリオは常に変化し、予測不可能であるため、YMCAヨーロッパとパートナーは現時点ではより詳細な中期戦略を立てることができず、すべての努力はニーズへの即時対応、ウクライナと近隣諸国のYMCAの状況評価、資源動員能力の強化に集中しています。

2. 状況および YMCA への影響

2月24日、私たちは違うヨーロッパで目を覚ました。ウクライナで進行中の戦争は前例のない人道的危機を引き起こし、人々は安全、保護、救済を求めて故郷を追われました。現在、ウクライナから近隣諸国への難民は約350万人、さらに約650万人が避難生活を送っていると推定されています。このままでは、700万人以上がウクライ



ナから脱出する可能性があります。難民の大半は、ウクライナと国境を接するEU諸国に向かっている。予想では、当面の間、そのほとんどが亡命、支援、リハビリテーションを求めてさらに西へと移動する。現在、危機対応では、国際基準に沿って、ウクライナから逃れてきた難民や第三人が他国へ安全にアクセスできるようにすることに主眼が置かれている。また、避難民の動態とニーズが指数関数的に増加し続ける中、重要な保護サービスと人道支援の提供に集中している。

欧州委員会は、欧州連合（EU）27カ国に到着したウクライナ難民に対し、すべてのウクライナ国民

に対する即時一時保護を含む、迅速かつ効果的な支援を提供するための措置を承認した。他の非EU加盟国も、ウクライナから到着した難民に対する具体的な保護政策を定めている。EU諸国および非EU諸国内の各国YMCAは、適用される方針を把



握しています。

戦争は、すなわち YMCA に大きな影響を及ぼしている。

1. キエフにある国立 YMCA 事務所の経営陣を含め、ウクライナの合計 17 の地方 YMCA が現在最前線の都市に取り残されている。多くの YMCA の主要なリーダーが海外に移住せざるを得なかったり、占領が始まった時に国外にいた。ウクライナの YMCA の指導者は、状況を監視し、行動を調整し、国際的に運動を代表し、受け取った資源を地域レベルのニーズに従って管理し、配分するために、(統治機関と地元の協会の両方) つながりを保っています。

2. 近隣諸国 (主にルーマニアとモルドバ) の YMCA は、ウクライナからの難民流入によるニーズに対応するために、迅速に適応しなければならなかった。例えば、他の地域 NGO とのコンソーシアムを率いるなど、これらの運動による連帯と効果的な行動は、2月24日以降の避難民や難民の波にプラスの影響を与えている。また、スロバキア、チェコ、ハンガリーの YMCA や、難民が集中しているポーランド (UNHCR によると 200 万人以上) の YMCA 会員や個人のグループでも、関連する活動が進行中である。

3. ロシアとベラルーシの YMCA は、いわゆる「新しい鉄のカーテン」の反対側に出現し、その持続可能性と安全性にはますます不安が増しています。YMCA の世界的な運動は、両国の運動の実際と将来の状況に極めて敏感であった。また、両国は紛争の直接的な原因として難民を受け入れています。

4. ヨーロッパをはじめ世界中の YMCA は、地域レベルから国際レベルまで、戦争で直接被害を受けた姉妹組織と連帯しています。現在進行中の資源動員キャンペーンに加え、国や地域の YMCA は近隣の協会と協力してウクライナの国境に物資を届けた。YMCA のボランティアやスタッフを通して個人や家族が受けた個人的な支援の結果、地域やヨーロッパ全体で何十もの個人的な物語や証言が集められました。その多くは、YMCA ヨーロッパのコミュニケーションやソーシャルメディアのプラットフォームで公開されました。



強調月間「Week4Waste」

Week4Waste 委員会委員長
ウルリック・ラウリドセン

精神的な健康には、有意義な仲間との活動が一番の薬です。そして、身内の将来を考えること以上に意欲的なことはないでしょう。人生とは、日々精一杯受け入れるべき美しい旅路です。しかし、だからといって、いつも目覚めたときから今日という日を迎える準備ができていくわけではなく、時には、人生が素晴らしい贈り物であることを思い出す必要があります。未来への贈り物は、より緑豊かな世界であり、ワイズメンは、ここで一緒に良い仕事をすることができます。

国際会長のキム・サンチェは、今年度の主題として「愛と尊厳をもって世界を癒そう」を掲げています。

街中や自然の中を歩くと、精神的にも肉体的にも調子が良くなります。そして、腰をかがめてゴミを拾うたびに、人々から愛される凜とした気持ちになれます。これこそが、私たちの素晴らしい組織の最高のPRになるのです。

私はここに、皆さんがクラブで Week4Waste プロジェクトについて真剣に考え、2022年4月2日(土)の活動に参加されるようお願いいたします。

その日、ワイズ統一の黄色いベストを身に着け、ゴミを拾いながら歩けば、私たちのことをより多くの人に知ってもらうことができます。この日のために自分たちのプログラムを作り、笑顔で親睦を深めましょう。

終わった後には親睦のときを持ち、そして、何キロのゴミを拾ったかの情報とともに、写真を撮って送ってください。写真は Facebook ページ「Week4Waste」や地域・区のウェブサイトに掲載します。

25,000人のワイズメンが世界のゴミの現状を変え、世界を癒す一員となることのできるのです。

世界中のワイズメンの皆さん、あなたの街をクリーンに、そしてグリーンにしましょう。

東日本区からのお知らせ

2.3 月度新規入会者

入会日	部	クラブ	入会者	紹介者
22/2/1	東新部	東京多摩 みなみ	伊藤江理夫	伊藤幾夫
22/2/2	あずさ部	甲府 21	赤澤奈美	宮岡宏美
22/2/8	あずさ部	甲府	池上宗遠	宮川真有
22/2/10	湘南・沖 縄部	横浜つ るみ	野辺良一	久保勝昭

JEF 献金

献金日	部	クラブ	献金者	金額
22/2/16	東新部	東京多摩 みなみ	田中博之	¥10000
22/3/30	富士山部	沼津	小林隆	¥10000

ミャンマー募金

累計¥263,658 (14件)

ウクライナ募金

累計¥737,000 (33件)

ユース活動支援献金

累計¥354,750 (38件)

4月の主な行事

4月1日	常任役員会
4月2日	Week 4 Waste 活動日
4月9日	第3回東日本区役員会
4月16日	ワイズナイトフォーラム
4月22日	文献・組織検討委員会
4月28日	拡大 EMC 事業委員会

助成金活用のお奨め

法人推進委員会委員長 板村哲也(東京武蔵野多摩)



私たちが属する東日本区は2021年7月1日に法人格を取得し「一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区」(以下「一社」)

となりました。法人化は2012-2013年度に検討が始まり、これまでの皆さまのご努力により実現しました。一社の定款および東日本区の組織図(任意団体、一般社団法人比較)は Handbook & Membership Roster 2021-2022 に掲載していますのでご参照ください。

法人化の目的は法人化そのものではなく、社会環境の変化に適応するとともに、法律で認められた団体として社会的信用のもとに諸活動を拡大し、知名度を向上し、区の発展、拡大を図ることです。さて、私たちの法人は剰余金の分配を行わない非営利型法人として登録されており、いろいろな助成・補助を受けられる可能性があります。

私たちはこれまで主に会員の皆さまの絶大な人的、時間的、経済的ご支援、ご負担により活動してきました。助成・補助を受けることは任意団体としてでも不可能ではありませんが、東日本区が非営利型法人格を取得した今は、地方自治体や公共団体、各種助成団体から助成・補助を受けられる可能性が大幅に拡大しました。各クラブ、部の皆さまにはこのメリットを大いに活用頂き、クラブ、部の活動の発展、拡大に繋げて頂きたいと思えます。例えばこれまで継続されているCS活動で、もう少し資金があればいいのにとこの案件の推進や、新規に計画中的CS活動に助成金を使用できないかなどの具体的検討を積極的に行ってください。

助成・補助の活用は、活動の財源の確保、CS活動の拡大だけにとどまりません。多方面の団体との繋がりや交流、それらを通しての知名度の向上、

会員増強など、いろいろな切り口で区の発展に繋がることが期待されます。

助成・補助の内容や手続きは自治体や助成団体および事業(活動)内容により様々で、一律には取り扱えません。従い、助成金の活用に関する取り組み方の大枠は、まず各クラブを中心に地元で情報収集や自治体、助成団体との話し合などを行って頂き、適宜東日本区(本委員会)が支援、アドバイス、サポートを行い、最終的な契約は一社名義で行うことを予定しています。

助成金の申請・交付の具体的取り組み方の例として「子どもゆめ基金」の紹介・説明動画のURLを下記いたしますのでご覧ください。

子どもゆめ基金紹介動画

<https://yumekikin.niye.go.jp/about/video.html>

なお、会員の皆さまの中に、助成活動を行う団体に所属しておられる方がいらっしゃいましたら法人推進委員会にご一報ください。また、これまでに助成金を受けられた経験のある会員の皆さまも是非ご一報ください。皆で情報、経験を共有して活発な活動に繋げていきましょう。

最後に法人化に関する関連情報を記します。ワイズメンズクラブ国際協会は1995年にスイスにおいて法人格を取得しています。この一連の経緯がYMIワールド2021-2022 No.2(2022年2月発行)の6頁に掲載されており、日本語訳を東日本区のウェブサイト(下記)でご覧いただけますので、ご一読ください。

<https://www.ys-east.or.jp/yami-world/>

以上

YMCA 報告

日本 YMCA 同盟協力主事/担当主事
光永尚生(三島)



世界の YMCA のトピックス

■ウクライナ： YMCA は平和を希求し、平和のために働く世界中の YMCA ムーブメントの思いと祈りは、キエフ

と国内 25 カ所にある YMCA ウクライナの仲間たち、そして故郷を追われた 200 万人ものウクライナ人たちとともに。

日本の YMCA の支援活動

・ YMCA stands for peace; YMCA works for peace--ウクライナ支援緊急募金--

ウクライナ YMCA では爆撃地から逃れる人々のための宿泊・食料・衣料品・衛生用品の提供を開始。今後は子どもや若者の心理社会的支援を行う。また、ウクライナ近隣諸国の YMCA が連携し、24 時間体制で避難民の受け入れ、救助、生活のための物資支援活動を大規模に展開。

・「軍事侵攻に反対し、平和を求める人々と連帯します」日本 YMCA 同盟総主事メッセージ

・現地の支援活動、ウクライナ YMCA について (動画・日本語訳あり)

■東アジアの平和を願ってフォーラムが開催

韓国の大邱 YMCA では東アジア国際平和フォーラムを開催。このフォーラムでは、東アジアの平和のための若者のネットワークを構築することの重要性が強調された。

■#BreakTheBias -アジア太平洋地域の女性たちの声

2022 年国際女性デーのキャンペーンテーマは「#BreakTheBias」。アジア・太平洋 YMCA 同盟男女共同参画委員会は 3 月 8 日から 31 日まで、YouTube チャンネルを通じて毎日女性のストーリーと声を紹介する。

日本の YMCA のトピックス

■とちぎ YMCA 大会 2021 がオンラインで開催

とちぎ YMCA の会員総会としての開催の意味を含め、会員だけでなく地域、社会に対してとちぎ YMCA の「いま」を内外に向けて発信。アーカイブが 2022 年 4 月 1 日 (金) まで配信されている。

■体力向上キャンペーン in 札幌

北海道 YMCA では体力向上キャンペーンとしてトレーニング動画を公開。本格的なトレーニングを楽しみながらできるようにリーダーたちが実践して紹介している。

■東日本大震災から 11 年

東京 YMCA が支援活動を行ってきた YMCA 石巻センターでは 3 月 11 日、追悼と感謝の集いが行われる。震災支援活動を機につくられた石巻広域ワイズメンズクラブと仙台 YMCA による共催。建物の再建は進んできたものの、産業や生活はまだ復興途上にある被災地を思い、祈りを合わせる。

■新入社員ボランティア体験講座を開催

YMCA フィランソロピー協会 (事務局：熊本 YMCA) では企業等の新入社員を対象とした研修プログラムを実施、車いす体験などを通して社会人として必要な、他者理解を深める。今年で 27 回目の開催。

■Amazon みんなで応援プロジェクト「新生活を応援」

YMCA が Amazon とともに取り組む社会貢献プロジェクト「みんなで応援」。4 月から新生活を迎える子どもたち、学生等に必要なものを「新生活応援ほしい物リスト」として呼びかける。

■学生 YMCA 第 20 回日韓交流プログラム

2 月 26 日、全国の学生 YMCA から参加者が集まり「在日米軍」と自分たちの生活が結びついているのか、なぜ米軍基地があり、どんな問題があるのか、についての勉強会を行い、翌 27 日には韓国の大学 YMCA メンバーと合同でそれぞれの状況共有と議論とによる交流を行った。

特集：YMCA ピンクシャツデー2022

■YMCA せとうち ピンクシャツウォーキングを支える「バレンタインデー・キップ キャンペーン」2 月 11 日(金)～ 3 月 27 日(日)ピンクシャツ

デー バーチャルウォーキング 2022 は、多くの方の歩み重なり総距離 31,563km、世界一周を達成！

■盛岡 YMCA いじめについての学び

【いじめる人】【いじめられる人】【見ている人】の3つの立場からそれぞれ思いを深める。岩手日報

■いじめを考える子どもかいぎ「一人ひとりをたいせつに」開催

全国 13YMCA、25 のアフタースクールの子どもたちが参加して行われた、いじめを考える子どもかいぎ「一人ひとりをたいせつに」。参加したアフタースクールから、それぞれのピンクシャツデーの取組や、いじめに対する考えを発表しあった。日本の YMCA のトピックス

■不登校など青少年を支える「liby チャリティーコンサート」

不登校など生きづらさを抱える子ども・若者たちの居場所東京 YMCA オープンスペース liby を支援するためのチャリティーコンサートを開催。

YouTube 上でライブ配信も実施。3月13日 13:30-14:45

■大阪 YMCA キリスト教オープンセミナー「私たちの生きづらさはどこにある？」

大阪キリスト教連合会との共催で、現在の中高生が置かれた状況を知り、彼ら・彼女らの生きづらさの背景を探る。3月12日 14:00-16:00 開催。オンライン。

■熊本 YMCA 本館 オープンハウス開催

新しくなった熊本 YMCA 本館の内覧ツアーや熊本 YMCA の歴史資料の展示など地域に向けたオープンハウスを開催。熊本発新幹線の時間に合わせての「撮り鉄」撮影会も。3月13日。

■YMCA stands for peace; YMCA works for peace ウクライナ支援緊急募金

ウクライナ YMCA では爆撃地から逃れる人々のための宿泊・食料・衣料品・衛生用品の提供を開始。今後は子どもや若者の心理社会的支援を行う。また、ウクライナ近隣諸国の YMCA が連携し、

24 時間体制で避難民の受け入れ、救助、生活のための物資支援活動を大規模に展開。

■世界 YMCA 大会申し込みの第 2 回締切は 3 月 25 日

2022 年 7 月 3 日-9 日、現地参加（デンマーク）／オンラインのハイブリッドで開催。現地で参加の場合は 4 月以降参加費が変更となるので、ご検討されてる方は 3 月中旬に所属 YMCA を通して申込を。

■日本 YMCA 同盟が参加している助成事業「プレーアカデミーwith 大坂なおみ」が日経新聞に掲載

（注：会員限定記事）

大坂選手は 2020 年、ナイキ、ローレウス財団とともに「Play academy with 大坂なおみ」を立ち上げた。スポーツを通じた女子の成長を促す草の根活動を続ける YMCA を含む団体らを支援。

ウクライナから日本へ避難手記

《いつかきつとうまくいく (いつかきつとウクライナになる)》

テティアナ・ロパテンコさん、64歳。2022年3月5日、キエフから300キロほど東南のクレメンチュクより、日本で暮らす娘夫婦を頼って、戦禍の移動990キロ（東京-鹿児島間・実際は迂回のためそれ以上）、国境を経てポーランド内での移動600キロ、ワルシャワでの避難者としての滞在とビザ申請、そして日本まで飛行距離8500キロを目指したテティアナ・ロパテンコさん（64歳）の手記である。日本には、3月18日に到着し、リュック一つでの入国、無事に娘夫婦、そして2月25日（ウクライナ侵攻翌日）に生まれた孫娘との再会を果たすことができた。

日本YMCA同盟ではグローバルネットワークを活用し、ヨーロッパYMCAと連携し、第三国（ポーランド）での移動・滞在・ビザ申請支援等を行った。そのための費用は全国各地から寄せられたポジティブネットYMCA国際協力募金から支援された。

テティアナ・ロパテンコ

みなさんこんにちは、私はターニャ（訳注：テティアナの愛称）といいます。ウクライナのクレメンチュクという街に住んでいます、いえ、住んでいました。クレメンチュクは乳製品、食肉、製菓工場、また石油精製工場、車両製造工場など、多くの工場がある工業都市です。戦争が始まったのは深夜のことでしたが、その瞬間を境に、それまでの人生とその後の人生はまるで違うものになったかのように感じました。この戦争の前までは友人たちと会えば近況を報告しあい、この一週間に起こった面白い話を語り合ったというのに、戦争が始まってからは、防空壕で会って話すことといえば、「ここに来る途中でロシアの軍用ネオンサインを見たから、空襲警報が終わったら必ず警察に電話をしなければ」などということくらいでした。

日本に住む娘から電話があり、YMCAが日本への渡航支援を申し出てくれていると聞いたとき、私は「そうしましょう」と答えました。そのためには、まず隣の国まで行き、その国の日本大使館でビザを取り、飛行機に乗る必要があります。ポーランドを経由することにしたのは、それが最も辿り着きやすい経路だったからです。駅まで着くと、避難のための無料列車が運行していることを知りましたが、その列車は超満員で、通常4人がけの席に11人が立って乗っている状態でした。私は膝が悪く、12月24日には腕を2カ所骨折し、現在も療養中だったため、他の選択肢を探さざるを得ませんでした。娘夫婦がSNSでより安全な経路を探してくれている間に、私はバスターミナルに行きました。リヴィウ行きのバスの座席予約をそこで受け付けており、運賃は1,900フリヴニャ（訳注：約7,600円。ただしウクライナの平均月収は約4万円）でした。私は席を予約し終えると、出発に向けて荷造りするために一旦帰宅しました。必要最低限のものしか持ち出すことはできないと思い、結局リュックサック一つ分の荷物だけを背負って出発することになりました。

翌朝、心の中で我が家に別れを告げ、バスで出発しました（クレメンチュクは工業都市のため、ロシア軍が市内の工場を爆撃し始めたら私の家にも被害が及ぶ可能性があり、私の帰る場所がなくなるのは時間の問題でした）。長時間かけてバスは走り、通常 12 時間のところ、25 時間もかかりました。これは、バスの運転手が安全のため、大都市を迂回し小さな通りを選んで走行したためにほかなりません。途中、軍の検問所やバリケードを何度も通過し、戦車を脇目に見つつ、書類のチェックを受けたりもしました。ほんの数日前まで美しかった私の国が廃墟と化していくのを目の当たりにするのはとても恐ろしく悲しい気持ちでした。半壊した家屋、学校... 25 時間の間にバスが停車したのは 3 回だけでした。急がなければなりません。リヴィウに到着すると、バスの運転手は、追加料金で国境まで送ることができると言いました。45 席のバスの乗客のうち 15 名がそうすることにしました。そこから国境まで 2 時間かかりましたが、国境を越えるのは 20 分で済みました。この状況にしてはかなり早かったと言えます。国境から先のバスの列に並ぶ人は多く、5~7 時間待ちでした。私はワルシャワに行く必要がありましたが、あいにくワルシャワ行きのバスはなく、クラクフ（訳注：ポーランド南部の都市）からワルシャワに行けるだろうと思い、クラクフ行きに乗りました。

自宅を出てポーランドまでの道中で一番辛かったこと。それはおそらく、家と、これまでの人生をかけて働いて手に入れたすべてを置いていくということです。そして、国境まで一体どうやって、いえ、そもそも日本までどうすれば辿り着けるのか想像もつかなかった、ということです。私が最後に飛行機に乗ったのは 33 年前、それも隣の国に行くだけでした。33 年ぶりに、しかも乗り継ぎもしながら、そんなに遠くまで…。それは言うまでもなく、私にとっては非常に大きな負担がかかるものでした。25 時間を超える道のり、そして、もしかしたら次の瞬間、バスに爆弾が落ちてくれば、この世から自分があとかたもなく消えてしまうかもしれない、という恐怖。

YMCA の職員がポーランドで出迎えてくれました。ポーランドでの私の滞在はもちろん、書類の準備やビザの取得にいたるまで彼らが私をずっとサポートし、手伝ってくれました。ワルシャワに来た当初は、飛行機の音で目が覚めると、空襲警報が聞こえたのではないか、防空壕に逃げ込まねばならないのではないか、などと考えながら飛び起きてしまう日々でした。ポーランド滞在中で一番大変だったこと。それは、言葉の壁もそうですが、ひたすら待たねばならないことでした。その間、YMCA のスタッフやその仲間たちがみんないかに親切にしてくれ、私を支えてくれたかについて、ここに記さずにいられません。こんな短い時間ではありましたが、記念写真まで撮るほどに、私たちの間には友情が築かれました。

出発の日になり、YMCA の職員が空港まで送り届けてくれ、その先の行き方を教えてくれました。最初のフライトはフランクフルトまで数時間でしたが、その後乗り継いだ東京までのフライトは 12 時間以上と大変なものでした。でも本当に大変なのは、到着してからでした。飛行機を降りると、まず山のような書類に記入しなければなりません。場所を移動しては新しい書類への記入と確認、さらにまた別の場所に移動しては、また別の書類への記入と確認、といった具合でした。すべて英語と日本語で書かれていましたが、私と同様、そのいずれの言語もわからない

い人は少なくありませんでした。飛行機を降りてから空港を出るまで、実に3時間半以上、しかもこれだけ長時間に及ぶフライトの後のことです。

飛行機の乗り継ぎ、そして空港を出るまでで一番大変だったこと。それは言語の違う人々とのコミュニケーションが取れないこと、空港で記入し確認しなければいけない書類が自分で読み通す事さえ出来ないほど膨大で、その上確認作業もきっちりしなければならなかったことです。

今ここ東京で、私はウクライナで起こっている恐ろしい日々から、徐々に自分を取り戻しつつあります（最初の数日はまだ思い出だけで自然と涙が流れましたが）。今後どう過ごしていくべきかまだ分かりませんが、今は小さな孫娘の子守りをして過ごしています。一日も早く《いつかきつとうまくいく（いつかきつとウクライナになる）》日に来ることを祈っています。

* 《いつかきつとウクライナになる》は、最近わたしたちの中で使われている表現で《いつかきつとうまくいく》という意味を表すフレーズです。

